



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

2023.10.11 (No.3174)
週報 No. 14

ロータリーの心で
友情を深めよう

第2560地区ガバナー／米山 忠 俊
会 長／吉井 直 樹
会長エレクト／渡 辺 良 一 (クラブ奉仕A)
副 会 長／歸 山 肇
幹 事／小 林 吾 郎
S A A／野 水 靖 之
会 計／梨 本 次 郎
直 前 会 長／西 山 徳 芳
会長ノミニ／柳 取 崇 之 (クラブ奉仕B)

例会日／毎週水曜日 12:30～
例会場及び事務局／
三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095
E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
https://www.sanjorotary.site

- 本日の出席会員数:56名中34名
- 先々週出席率:66.07%

【先週のメイクアップ】

- [10.4] 南雲年度ガバナー補佐研修
パート2補講(長岡)へ
・関川 博さん、石黒良行さん
- [10.5] 三条RACへ
・石倉政雄さん、松永隆夫さん
- [10.7] 米山記念奨学委員長セミナー
(新潟)へ
・吉井直樹さん、石黒良行さん
- [10.9] 赤い羽根共同募金街頭募金へ
・松永一義さん
- [10.10] 三条北RCへ
・小越憲泰さん、柳取崇之さん、
・五十嵐晋三さん、松永一義さん、
・荻根澤隆雄さん、中村和彦さん



2023～2024 年度国際ロータリーのテーマ



「キンモクセイ」

会長挨拶

吉井直樹 会長



こんにちは。

先週は不覚にも新型コロナウイルスに罹患いたしました。皆様にご迷惑をおかけしました。おかげさまで、今日は完全に治りました。

本日は地区ゴルフ大会に出席の皆様が会場にいらっしやらないので、少ない人数での例会になります。本来、ゴルフ大会は明日の開催であります。参加人数が多くなり、第4分区のクラブは前日にラウンドしてほしいとの要請のため、米山ガバナーに協力するとの方針のもと、異例ですが、この形といたしました。

さて、私は先ほど燕三条FMで生放送に出演してきました。11時から30分ほどの放送ですが、三条RCの会長として、出演依頼が来ましたので、行ってまいりました。

とくだん難しい話はありませんが、私の個人的な話と、クラブを紹介して、さらに活動に聴視者からご理解賜れるようお話してきたつもりです。燕三条FMは開局当時私が青年会議所の現役メンバーであって、合併問題に一生懸命携わっていたころ色々とかかわりを持っていました。その当時のことを懐かしく思い出しました。今日の放送内容にも

あったのですが、今後のこの県央地域がどうなっていったらよいと思いますか？との問いに、やはり、今一度、広域合併を含む街のあり方を考え、議論を盛り上げ、活気ある地域にしていきたいと思えます。皆様も今一度この地域の活性化に考えを巡らしてみてもいかがでしょうか？

幹事報告

船越良則 副幹事



◎クラブのウェブサイトがリニューアルしました。

《新アドレス》 <https://www.sanjorotary.site>

◎次週 18日(水)～19日(木)は、親睦旅行です。

旅行ご欠席の方は事務局で記帳または他クラブでメイクアップをお願いいたします。

ニコニコBOX

吉井直樹会長

先週は、不覚をとり、コロナにかかってしまいました。皆様には大変御迷惑をおかけしました。おかげさまで、完治いたしました。

石黒良行さん

本日は、よろしく申し上げます。

長谷川正実さん

涼しくなってきましたね。体調管理、気をつけましょう。

菊池 渉さん

私の都合以外の物が水曜日毎に表れて、無理やり、私を例会欠席させるのです。これもシャバ！

嘉瀬一洋さん

体調も良くなって良かったですね。石黒さん、卓話楽しみにしています。

渋谷政道さん

石黒会員、地区米山奨学への出向お疲れ様です。卓話楽しみにしております。

梨本次郎さん

この連休で富山県からトロッコ列車でけやき平から入り、水平歩道、下ノ廊下を30km歩いて黒部ダムまで行きました。黒部峡谷の核心部です。今年の親睦旅行を思い出しました。

野水靖之さん、 柳取崇之さん、 早川滝徳さん、
船越良則さん、 高橋俊樹さん、 松永隆夫さん、
落合孝夫さん、 金子俊郎さん、 高橋 司さん、
安達俊明さん、 斎藤弘文さん、 五十嵐博宣さん、
石橋育於さん、 山田富義さん

石黒会員、本日は卓話ありがとうございます。
お話楽しみにしております。

10月11日分 ￥ 21,000

今年度累計 ￥ 455,000

「米山月間」

石黒良行 米山記念奨学委員長



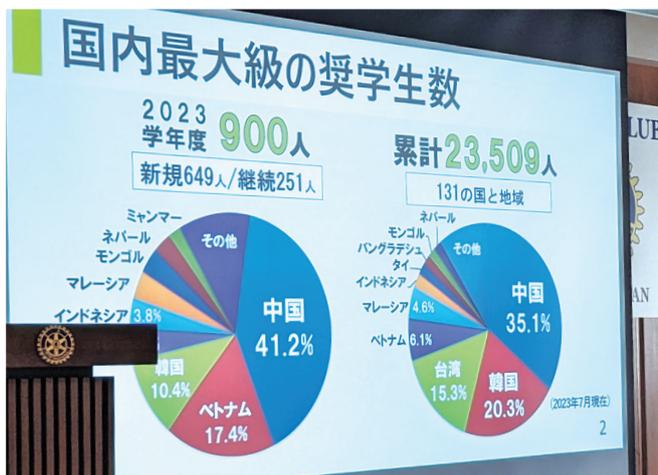
米山は外国人留学生を対象とする民間の奨学金では国内最大規模です。2023年度は、日本全国で900人(前年度897人)が採用され、各ロータリークラブでお世話いただいています。累計では今年2か国増え、世界131の国と地域から

2万3,509人支援しています。今年度新たに採用されたのは、ギリシャとポルトガルです。中国、韓国、台湾が多いですが、ここ数年でベトナムからの留学生が急増しており現役奨学生の中では中国に次いで多くを占めています。

米山奨学生の国籍で最も多くを占めるのは中国です。想像していたより多いな・・・、そんな印象を持たれる方もいるかもしれません。理由はまず大前提として、日本の大学等(日本語学校を除く高等教育機関)で学ぶ外国人留学生のうち47%、実に半数近くが中国の学生だということがあります。

米山は各地区が定める「指定校」から米山奨学生としてふさわしい留学生を推薦してもらって、そこから地区の選考試験を経て採用されます。指定校のほとんどは大学ですから、どうしても元々の在籍割合が影響する訳です。そして、推薦者は誰でも良いわけではなく、将来の活躍が期待される優秀な学生でなくてはなりません。実際に面接してみると、「中国の学生はやっぱり優秀」という面接委員の声は多く聞かれます。

とはいえ、一つの国に偏ることなく、色々な国の留学生を支援して差し上げたいという思いはあります。各地区では各指定校に対し、「1か国30%以内」などの要望を出して、多様な国から採用するよう努力しています。



米山奨学生の採用は、全国統一の基準があります。「将来の目標・留学の目的がきちんとしているかどうか」「交流の熱意があるかどうか」「人柄の良さ」「コミュニケーション能力の高さ」詳しい評価項目は公表していませんが、全国統一の評価項目を使って各地区の選考委員会が面接選考をしています。もちろん、応募書類の審査もしています。

ロータリー米山記念奨学会は2012年に公益財団法人となり、より一層の公平性・透明性を確保するため、このように全国共通の選考基準で選考をしています。そのうえで、例えば「国籍や県別割合の調整」「地区独自に実施するグループディスカッションの評価」など、地区の裁量を加えても良いことになっています。

米山奨学金は、お金に困っている留学生の経済支援ではありません。珍しい国だから、生活に困っているから、あるいは学校の成績が優秀だから・・・、ただそれだけでは米山奨学生に合格しないのです。将来、日本と世界とを結ぶ架け橋となって国際社会で活躍しロータリーの良き理解者となる人材を育てる事業なのです。

続いて、寄付金の状況についてお話をさせていただきます。昨年度、2022-23年度の寄付金収入は14億2,292万円(前年度13億4,579万円)と、その前の年度から7,700万円増加となりました。有価証券の配当金は、事前の取り決めにより、奨学金のみに使用しています。皆様のご寄付はほとんどが寄付金に使われていますが、奨学金以外の例えば地区や世話クラブへの補助金、事業部門の職員人件費などにも一部使われています。

米山奨学事業は、規模が非常に大きい事業であるにもかかわらず、管理費は支出のわずか3%です。超低金利時代ということもあり、管理費が利子収入を超えてしまうこともあります。基本的には、利子収入で賄っていくように努めています。なお、

全体で見ると1億5,400万円の黒字となっており、今後の奨学金事業のために積み立てつつ計画的に払いただいています。

米山奨学会への寄付は大きく2種類です。クラブから会員数分を納める「普通寄付金」と、それ以外に、個人・法人・クラブから任意で出す「特別寄付金」です。

「普通寄付金」は、かつて米山奨学会が財団法人を設立しようとした際、当時の文部省はなかなか首を縦にふってくれませんでした。そこで、普通寄付金の確約を国内全クラブからもらい、安定財源とすることを約束したことにより、ようやく財団法人の設立の認可が下りたという経緯があるもので大切な役割を担っています。

「特別寄付金」は、任意でしていただくものです。こちらは個人やクラブ、法人の実績となり、表彰の対象となります。また、米山奨学会への寄付は寄付金控除の対象となり、確定申告すれば所得税、法人税の税制優遇を受けることができます。

米山への特別寄付金は、表彰の対象となります。個人として特別寄付をした場合、累計で10万円に達すると「米山功労者」となり、米山奨学会から感謝状が贈られます。今年度(2023年度)から表彰制度が一部変わり、累計50万円になった方に新たにピンバッジが贈られることになりました。こうしたこともモチベーションのひとつにさせていただき、是非継続的に寄付をしていただけますようお願いいたします。

続いて、寄付金の状況を説明させていただきます。これは地区別の個人平均寄付額です。昨年度の全国平均は16,960円で、その前の年度より全体で989円アップしました。最も高かったのは、第2590地区(神奈川県横浜市・川崎市)で27,903円でした。当地区は一人当たりの平均は18,319円で、全国で8番目の寄付をいただきました。

皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

次は、特別寄付者の割合です。全国平均は47.3%で、当地区は70.1%で全国第9位でした。全国トップは第2650地区(福井・京都・奈良・滋賀)で、84%もの会員から特別寄付をしていただいています。寄付金の裾野を少しでも広げることが米山奨学事業への理解を広めることでもあり、地区奨学生採用数のアップにもつながります。

寄付金の額に下限はありません。極端ですが100円

でもかまいません。一人でも多くの特別寄付が、採用奨学生のアップにつながります。できれば、会員全員のご協力を宜しくお願い致します。

では、皆さんが支援した元奨学生たちは、どんな活躍をしているのでしょうか。巣立った米山奨学生について、お話をさせていただきます。巣立った奨学生のOB組織である米山学友会は日本に33、海外に10あります。2023年5月に、新たにベトナム南部（ホーチミン）を拠点とする「ベトナム南米山学友会」が設立承認されました。

各学友会では、それぞれの親睦を深めたり、自主的に社会奉仕活動をしたり、ロータリーの活動に協力したりしています。中でも米山学友による世界大会は、国内外の学友会が持ち回りで主催する大きな大会です。今年につくばで開かれた「再会 in 関東」は、関東10地区の米山学友による共同開催という形で行われ、学友や現役奨学生、ロータリー会員など日本国内外から1,209人が登録する大きな大会となりました。この様子は、「ロータリーの友」10月号の「よねやまだより」に詳しく記事がでますので是非ご覧ください。

参加した会員からは、口々に「行ってよかった!!」と、感動の声をいただきました。次は3年後、台湾でのロータリー国際大会に合わせて開催されます。是非、ご参加ください。

海外の米山学友も頑張っています。今回は台湾と韓国の米山学友の活動を紹介します。台湾の米山学友会では、台湾へ留学する日本人の若者に対して奨学金を支給しています。今年で15年目となり、累計53人もの日本人を支援しています。また、海外留学を考えている台湾の学生に日本への留学をすすめたり、米山奨学金を紹介したりしてくださっています。

また、あまり知られていませんが、韓国の米山学友会でも、2016年から韓国へ留学する日本の若者への奨学金支援を行っています。今年は9人採用され、すでに累計42人もの日本人を支援くださっています。

ロータリーに親しんだ学友たちは、卒業後もロータ

リーとの繋がりを持ち続けたいと願っています。その一つとして、ロータリー会員として、われわれの仲間となる学友がいます。現在、ロータリー会員になった奨学生は、292人います。ここで紹介しているお二人は、それぞれの奨学生時代の世話クラブに入会し、今年度のクラブ会長をつとめている学友です。また、ガバナーになった学友も3人います。米山学友が中心となって設立したロータリークラブは、国内外に6つあるほか、衛星クラブも3つ設立されています。

米山へのご寄付もほとんどはロータリー会員からのものですが、実は学友もこの事業を支えてくれています。米山学友からの寄付金は、累計約1億2,700万円にのぼります。この1億2,700万円以外にも、日本で大きな災害が起きるたびに、国内外の学友から義援金が寄せられています。このように、「寄付」や「義援金」という形でのロータリーへの恩返しは、他のプログラムではあまりみられないものです。

巣立った奨学生たちは、個人としても世界中で活躍しています。「豆辞典」や「米山学友の群像」、「ロータリーの友」、「よねやまだより」等でも多くの学友を紹介しています。

米山奨学事業の成果は、学友にあります。世話クラブの会員や、カウンセラーによって受けたご恩を忘れず、ロータリー活動によって育まれた奨学生は、米山学友となって世界で活躍してくれています。どうぞこれからも、米山奨学事業に対し、ご支援ご協力を宜しくお願い致します。



次週例会 10月25日 「ライラ研修報告」
石倉政雄 青少年奉仕委員長

次々週例会 11月1日 「ロータリー財団月間」
船越良則 財団委員長

